

## 第2回荒川水系流域委員会 議事要旨

開催日時:令和2年11月20日(金) 13:30~15:30

場 所:新潟大学 駅南キャンパスときめいと

議事次第: 1. 開会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議事

(1)規約改正

(2)荒川水系河川整備計画の点検

(3)荒川直轄河川改修事業の再評価

5. その他

6. 閉会

### ○議事

(1)規約改正(資料-1)

- 委員からの意見なし。事務局からの改正案は了承された。

(2)荒川水系河川整備計画の点検(資料-2)

(委員)

- 横川ダム完成後、河川の水質に変化はあったか。荒川流域の流域治水対策において田んぼダムを活用していく予定はあるか。

(事務局)

- 荒川においてはダム完成後もBODの変化はみられない。流域治水対策においては農政関係者も参画をいただいているので、今後検討を進める。

(委員)

- ダムの事前放流について、実施マニュアル等は整備されているのか

(事務局)

- 事前放流に関して、実施マニュアルは整備されていないが、個々のダムで事前放流実施要領を策定することとなっている。

(委員)

- 流域治水対策において「気候変動を踏まえた」となっているが、どのくらいの時間的スパンを考えているのか。

(事務局)

- 現状の実績から気候変動を加味した計画への転換を図っていく。気候変動をどのように計画へ位置づけるかについては、現在、本省で検討をしている。

(委員)

- 点検項目に「地域の意向、要望事項」があるが、説明や資料中にこのことが触れられていない。

(事務局)

- 資料3 P.15 に示しているとおおり、地元から要望事項等を受けている。

(委員)

- 支川の内水氾濫時のポンプ車の派遣、最近のクマ対策のための高水敷伐採など自治体からはいろいろな要望をしている。

(委員)

- P.43 の「トミヨを含む」という表現であるが、もっとトミヨを前面に出して「トミヨを核とした」のように強い表現にしてもよいのでは。

(事務局)

- トミヨの対策について今後もPRをしていく。

(全体を通じて)

- この数年全国で水害が多発している。事務所には万が一の時、後悔がないよう事業の加速を望む。ハード+ソフト対策は重要であるが、ハード整備は効果も大きく整備の要である。ハード対策の遅れがないよう引き続き努力をお願いしたい。

#### 【点検結果について】

引き続き、現計画に基づき、河川整備を実施していく。

#### (3) 荒川直轄河川改修事業の再評価(資料-3)

(委員)

- 河川整備計画を目指して早期にハード対策を進めてもらい、それと並行して想定外の洪水に対応出来るよう、計画の見直しをしていただきたい。

(事務局)

- 河川整備計画に基づく事業は引き続き進める一方で、気候変動を踏まえた長期的な計画については、現在本省にて検討しているところである。

(委員)

- 資料中の「発生確率」、「計画対象規模」、「流量規模」という言葉はいずれも同じ意味であるか。

(事務局)

- 同じ意味である。

(全体を通じて)

- 過去に経験したことがないような洪水が、広い範囲で同時多発的に発生している。昨年の台風19号を振り返ると、関東・北陸・東北地方と東日本の大半で、同時に水害が起こっている。仮に関東地方で災害が発生した場合、日本海側の都市にバックアップの機能が求められることとなるため、川の整備だけでなく、道路の整備、全てのインフラ整備も新しい意味をもって、今後さらに重要になっていくと考えられる。

#### 【事業の継続について】

引き続き、事業を継続することが妥当であると判断する。

以 上